

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ユニバーサルスクール		
○保護者評価実施期間	令和6年11月26日		令和7年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	55 (回答者数)	33
○従業者評価実施期間	令和6年12月17日		令和7年1月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	色々な療育があり内容が充実している。	15種類の療育があり、それぞれ専門性を持って行っている。内容に対して、定期的に見直しを行っている。ビジョントレーニングでは、専用機器を導入して活用している。また、療育の様子については、ネットを活用して、利用時の様子や、写真を共有しています。	マンネリ化しないように、引き続き、スタッフで見直し、検討しながら、新しい課題を考えていく。
2	小学1年生から高校3年生までの児童がいて、縦割りの中で交流ができて、良い刺激を受けることができる。	幅広い年齢の、お友達との関わり場をつくり、見守り支援している。お友達作りが苦手なお友達にも、様々な手だてによって、つながりづくりや、コミュニケーションカアップにつなげている。	色々なことに協力して取り組むことに挑戦していくことを支援する。
3	利用者への接し方、声のかけ方、話をきくことを、コーチングスキルを活用して、徹底していること。	利用者に対して、肯定感を高める声掛けや、対応をしている。毎回打ち合わせの時間を通して、一人一人のご利用者さんについて、情報共有をしている。1日の終了時には、反省会を実施して、支援方法のブラッシュアップをしている。	毎回実施している月1回の研修を通して、スタッフのコーチングスキルの向上をさらに目指す。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	コロナ禍での対応の仕方が継続しており、開かれた印象がなくなっている面がある。	保護者の知りたいことを、充分にお伝えできているかを、検討できていなかった。	保護者へのオープンスクールの提案で、実際の支援の様子を見てもらう場を設定する。
2	療育がマンネリ化してしまうことがある。	長期的に見通して、新しいアイデアを積極的に交流する機会を増やす。	療育内容の充実のため、年間計画の見直し、利用者のニーズに合った内容の提案していく。
3	スタッフが利用者の自立という認識をさらに高める必要がある。	できることを手伝ってしまうことが、自立の妨げになるので、見守ることが必要だと考えている。	研修で意識を高めて、現場でもスタッフ同士で声をかけて、自立に向けての支援を徹底していく。